

ナガラマチ 長良町 金澤櫻島の小名であつたが、明治四年四月戸籍編成の時町名とした。此の地は野田寺町の裏、犀川の崖縁で、常に川風が強いから、もとは吹上と呼んだ所である。

ナカラキシンクラウド 半井新藏人 越前府中に於いて前田利家に仕へ、祿三百石を受けた。子孫世々藩に仕へる。

ナカラキタダアキラ 半井允明 通稱七右衛門。藩の老臣前田土佐守に仕へた山口半兵衛の二男で、文化十年同家臣半井平八の後を承け、文久元年五十石を祿せられた。允明は關流の算學を能くしたが、師承は明らかでない。慶應三年八月十八日歿。

ナガラヤスタ 流安田 石川郡長屋庄に屬する部落。

ナカキ 中居 鳳至郡南北郷に屬する部落。古くは中井とも書き、又中井南に對して中井北ともいうたことは、天文元年七月の諸橋六郷南北棟敷注文に見え、天正十年十月前田利家の三右衛門に與へた扶持の宛行狀には中井北方とも記されてゐる。後正保・寛文・貞享の高辻帳に中居・中居南町を中居兩町とある。能登名跡志に「此の中居は南村・北村と別れて、家數四百軒許あり。昔は禁裡御用を勤めて、諸役御免の御中居領なりし故名とす。此の邊を南北の郷といふ。云々。御塩代官一人在住。兩町に肝煎二人。眞言宗八ヶ寺、一向宗二ヶ寺、禪宗二ヶ寺。北村氏神は六所大明神とて、神主神杉氏、別當地福院也。南村氏神は山王權現也。云々。」と記する。

ナガキ 永井 江沼郡西庄に屬する部落。爰憩紀開に、昔永井村の領で、往還から永井

の方に下る道の左右に九ヶ寺があつたといひ、同書にまた、永井本村と出村との境に津屋敷といふ所があつて、土中から陶器の破片を出す」と記する。

ナガキ 長井 鳳至郡大屋庄に屬する部落。能登名跡志に「家數百軒許、所々に散りてあり。よき村也。此村に勘十郎とて古き百姓あり。利家より七石五斗の御墨付ありといへども、御扶持頂戴せず。是は利家公御様子有て、輪島の御旅館を俄に御立にて、此長井へ御遊ばされて、此勘十郎が家に御泊ありし時戴きし御墨付なり。」と記する。

ナガキ 長井 ↓ナガキザカ 長井坂。

ナガキアリヒロ 長井在寛 通稱平吉。馬淵順左衛門齋行の子で、長井助左衛門煖寛に養はれたもの。寛政十二年新番に列し、學校讀師となり、文化二年遺知百石を襲いで組外に列し、御書物役に任じ、文政三年御書物奉行、五年竹澤御殿附御書院組、七年御膳奉行大小將組、天保七年再御書物奉行、十二年明倫堂助教等に歴任した。在寛字は寛郷、一字は子毅。葵園・陶齋・董齋又は董居と號し、嘉永元年隱居の後陶齋を以て通稱とした。董其昌の書風を學んで之を能くし、又曾て皇朝百代通略の編纂に參與したこともある。萬延元年二月歿。享年八十二。趙注孟子異同纂要の著がある。

ナカキイシ 中居石 鳳至郡中居に産する石材。輝石安山岩で、黝色石基中に黒色礫状斜長石及び白色大形礫状斜長石を含み、殆ど礫岩に類する。

ナカキイモジ 中居鑄物師 ↓イモジ 鑄物師。

ナカキイモジデンシヨ 中居鑄物師傳書 一冊。能登鳳至郡中居の鑄物師等が家に傳へ來た繪旨、代々頂戴した口宣案、前田利家等から與へた親翰・定書、並びに鑄物師由來書等を載せたものである。

ナカキガハ 中居川 鳳至郡洲衛から源を發し、波志借に至り、別に木原を發し梶を経たる支流を併せて波志借川と稱し、下流中居川一名日詰川となり、中居の中央を貫きて海に注ぐ。

ナカキガハ 長井川 ↓フゲンガハ 鳳至

ナカキカマヤ 中井釜屋 天正十年二月廿一日式部卿法印宛淳光の書狀に「能州中井釜屋村御料所之儀云々」とある。中井釜屋村は鳳至郡中居北(今の中居)を、鑄物師が居たからさうも言うたのである。

ナカキキタ 中居北 ↓ナカキ 中居。

ナカキコウ 中居港 鳳至郡岩車の野々木鼻と、中居南の神明鼻との間にあつて、港口西南に開き、東西北三面山に圍まれ、港内極めて安全である。又神明鼻と内浦のタケガ鼻との間に灣入するものを麥ヶ浦港といひ、中居港の支港である。

ナガキザカ 長井坂 鳳至郡本郷に屬する部落。惣持寺文書永利四年四月廿七日沙彌芝叟寄進狀に楠比庄ながい村と見え、同寺藏大雄庵田地目録に長江村と見えるのは、この長井坂である。

ナガキサダエモン 長井貞右衛門 正徳五年父清四郎の遺知九十石を襲いで御算用者小頭となり、寛保三年三十石を増して組外に進み、延享二年歿。子孫四代貞助祿三の一中早

世して家斷絶した。

ナカキタケクニ 中居武國 通稱武次郎。鳳至郡中居村の人。幼より武技を好み、八歳江戸に往いて桃井氏の門に學び、天保三年高橋泥舟に就き、又柳原健吉に從うて劍槍の藝を極め、十三年肥後熊本に赴き、弘化三年土佐に遊び、嘉永三年筑前福岡に至り、安政三年江戸に還り、文久三年前田齊泰の上洛するや、その護衛の任に當り、定番歩組に班し、後金澤に在つて徒弟に業を授けた。武國容貌魁偉、毎朝早起し槍を執つて馳突の狀をなすこと二千回に及んだ。明治廿三年三月十五日六十九歳を以て歿。

ナガキダニ 長井谷 河北郡長屋・夕日寺。傳燈寺の諸部落を長井谷といふ。恐らくは長屋谷の譌であらう。

ナガキナホフル 永井尚古 通稱眞、眞一郎。實は上坂兩左衛門の二子で、永井中務尚芳に養はれたもの。天明五年父の遺知三百石を受けて組外に列し、次いで大小將組に轉じて前田齊廣の御抱守に任じ、享和三年表小將横目から次第に昇進して御先簡頭に至り、文政二年に歿した。

ナカキノサンエモン 中居の三右衛門 鳳至郡中居の人。鑄物師業者の長で、眞清田氏と稱した。天正六年八月長連龍の能登に侵入して穴水城を復した時、中居の辨慶は長氏の舊誼を思ひ、同志と共に之に加擔しようとしたが、甲城に在つた越後勢は、十六日海上から中居を襲ひ、火を放ち人を殺した。辨慶乃ち恐れて、越後勢の爲に力を致さんことを提言したので、穴水の城將長澤筑前光國は、辨慶の七尾城主飯坂長實に忠誠を表する條件で